

楷の木



令和5年度卒業証書授与式

学校の様子は、ホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

[東出雲中学校](#) [検索](#)

3月8日(金)、令和5年度卒業証書授与式を行いました。今年は、従来どおりに近い華やかな卒業式にしたいと考え、在校生(2年生と1年生の代表者)及び来賓の出席者数も拡大し、保護者の入場制限も取り止め実施しました。

当日は天候にも恵まれ、卒業生一人一人が式場へ堂々と入場する姿に、卒業生のやり遂げた達成感と乗り越えてきた自信が伝わってくるとともに、今回の卒業式が、中学校生活における最高の思い出になればと願いました。

在校生代表の送辞は、生徒会副会長の得能さんが行いました。生徒会行事での先輩方のリーダーシップや部活動でやさしく指導いただいたことに感謝し、先輩方の今後の活躍を祈りました。また、卒業生代表の答辞は、前生徒会長の杉峠さんが行いました。3年間の中学校生活を振り返り、後輩や仲間、支えてくれた家族への感謝の気持ちと、これから進む道において東出雲中で学んだことを糧に今後も一生懸命取り組む決意を述べてくれました。

このたび巣立つ卒業生の皆さんは、どんな時でも仲間と協力し、より良い方策を考え、工夫し実行してきました。東出雲中学校で身につけたこの力を大切に、今後もたくさんのことに挑戦し、自分の花を咲かせてほしいと思います。



<卒業式校長式辞より(抜粋)>

卒業生のみなさんの今後に期待を込め、一つの詩についてお話したいと思います。卒業生のみなさんは、この一年間、生徒会を中心に『花』を意識したスローガンを考え、全校生徒にその思いを伝え、活動に取り組んできました。

みなさんは「念ずれば花ひらく」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。この「念ずれば花ひらく」とは、仏教詩人の坂村真民(さかむら しんみん)という方の詩です。ここで、その詩を紹介します。『念ずれば花ひらく』

苦しいとき 母がいつも口にしていた

このことばを わたしもいつのころからか となえるようになった

そうしてそのたび わたしの花がふしぎと ひとつひとつ ひらいていった

という詩です。念ずるとは「こうしたいといつも強く思うこと」であり、花ひらくとは「自分の夢や理想を実現すること」をさしています。

「念ずれば、花ひらく」という言葉には、自分はこうしたいと強く決意をして実行しなければ、自分の花は開かないという意味があるのだと思います。

みなさんの人生は一度きりです。他の誰も自分の人生の代わりに務めることはできません。人生の決定権は自分にありその責任もすべて自分で負うのです。自分の人生を後悔なく生き抜くために大切なことは、決して敷かれたレールを行くことではなく、何事も自分で真剣に考え、判断し、自分の意志で行動することに尽きると思います。

これから卒業生が進む道には、楽しいこともあればうまくいかないこともきっとたくさんあるでしょう。でも、みなさんにはそれぞれの良さがあり、素晴らしい個性の花をもっています。自分の可能性を信じて、「やればできる」と熱く心を燃やし、「自分は将来こうなるのだ」という強い信念をもって、これから進むそれぞれの道で、卒業生のみなさんが自分の花を大きくひらかせることを心から期待しています。



「3年生を送る会」を開催しました。

卒業式の前日、新生徒会は3年生への感謝の気持ちを込めてこの会を開催しました。3年間の活躍をふり返るスライドやお世話になった先生からのメッセージに、会場は溢れる笑顔に包まれ、卒業前の和やかなひと時となりました。そして、令和6年の生徒会スローガンは、「絆 ～個性の色で結ぼう笑顔の輪～」に引き継がれました。全校生徒が個性を尊重し、互いに絆を深め、笑顔の輪がより大きくなることを期待しています。



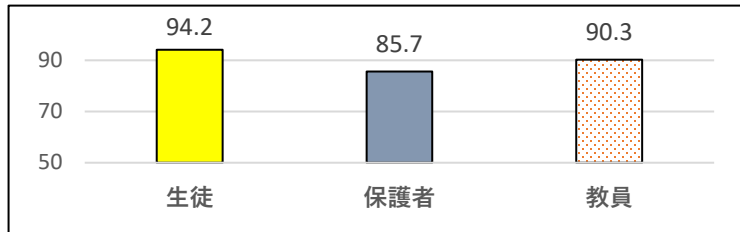
学校評価の結果から

昨年12月に、生徒、保護者の皆様及び教職員に今年1年を振り返ってアンケートを実施しました。そのアンケート結果をもとに分析をし、来年度の取組について教職員で話し合い等を重ねています。今年度の分析については、2月13日に、学校運営協議会を開催し、委員の皆様よりご意見をいただきました。全ての項目結果については、3月1日に配布していますので、そちらをご覧ください。その中から何項目かをピックアップし、ご紹介します。(右欄は、教職員による分析等)

学校経営の重点内容 ○人権教育を基底に据え、生徒が安心して活動できる学校教育を進める。

「相手の思いを意識して、意見や気持ちを伝えることができる。」に肯定的な意見の割合

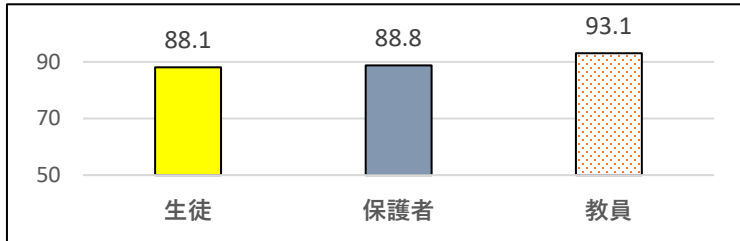
■生徒 ■保護者 ■教員 【数値は肯定的意見の割合(%)】



昨年度比で生徒が4ポイント増加した。保護者・教職員はともに変化がなかったが、日頃の教職員の指導や、生徒が授業や行事を通して、伝え合う活動の指導が功を奏している。

学校経営の重点内容 ○将来にわたって必要な基盤を形成するために、キャリア教育の充実を図る。

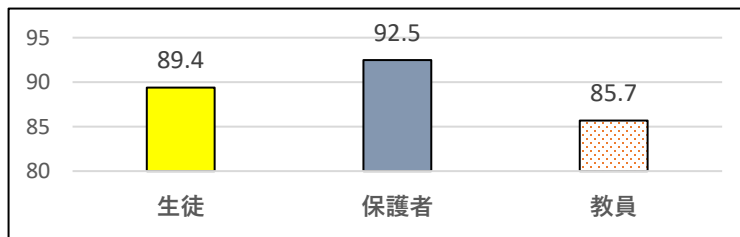
「キャリアパスポートを有効に活用しながら振り返りをしている」に肯定的な意見の割合



三者ともに肯定的な評価が高くなった。キャリアパスポートの内容や活用方法を見直し、学校全体で統一して取り組んだ結果と考える。また、各学期シートにキャリアパスポートと明記したことで生徒・保護者に認識された。

学校経営の重点内容 ○豊かな心を育むために、道徳の時間、体験活動や学び合う活動の充実を推進するとともに、あたたかい人間関係(集団)づくりをする。

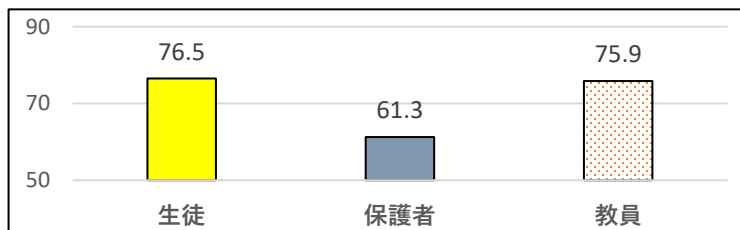
「道徳の授業で、考えたり話し合ったりする場面がある。」に肯定的な意見の割合



考えたり、話し合ったりする場면을授業に活かす努力が継続されているが、生徒の肯定的評価は若干減少した。保護者の評価が上昇したのは、学級通信等を通じて道徳の授業の様子や生徒のコメントが伝わる場面が増えたためと考えられる。

学校経営の重点内容 ○一人一人に応じたきめ細かな指導の充実及び基礎・基本の定着を図る。

「家庭学習に工夫して取り組んでいる」に肯定的な意見の割合



家庭学習の習慣化を目標に自学ノートを用いた取組を行い、各教科では宿題を出すなどしている。しかし、質問文にある「工夫して」取り組んでいるかという点で、評価があまり伸びないのではないかと考える。

◆学校運営協議会委員の皆様からのコメント(学校評価全体を通しての一部を紹介します)

- 「学校で自分が大切にされている」に肯定的な回答の生徒が多いが、「そう思わない」と回答した生徒への対応についても細やかに行ってほしい。
- 保護者面談の場で、保護者から生の声が出るのが大事だと感じる。目を見て話せる場を今後も作ってほしい。
- 授業内容と宿題を関連づけながら、宿題や家庭学習の質の向上を図る。
- 生徒がキャリアパスポートを持ち帰り、保護者がコメントを書き込むことは、わが子の成長を感じることができてよかった。
- 生徒の主体的な取り組み(体育祭や合唱コンクール)について、本番に向けての準備の過程を含め、できることを評価し、ほめる声かけを行ってほしい。
- 行事等で生徒が前面に出て頑張っている様子が昨年度に比べさらによく見えた。
- 生活リズムやメディアコントロールの質問項目について、保護者の肯定的回答が低いのは、それだけ、わが子の生活リズムやメディア接触について関心が高い表れだと感じる。引き続き、家庭と学校との連携が必要である。